



「長州ながと和牛」の牛丼～美味しすぎ～

1月29日(水)に、給食の献立を配られた2学期末から待ちに待っていた「長州ながと和牛の牛丼」が学校給食に出来ました！この日は、給食時間の前に生産者であり向津具小でも大変お世話になっている大汐さんから「長州ながと和牛」の授業をしていただきました。エサをどれくらい食べるのかなどどうやって育てられているのかに関心のある児童は、この「命に関する授業」でたくさんの質問をしていました。可愛がって育てる命が、姿を変え、みんなの命のもとになるということはどう説明すると受け入れやすくなるかなど、児童のためにたくさん考えてくださった大汐さんに感謝しています。命をいただくから「いただきます」「ごちそうさまでした」をきちんと伝えてほしいという思いを、子どもたちもしっかり受け止めることができていたように感じています。

この日は、新聞(長門時事、山口新聞)、テレビ(TYSにKRY、YAB、ほっちゃん)の取材が入り、たくさんの人に囲まれた授業や給食でしたが、子どもたちは、それも楽しんでいるように見えました。市長さんの牛乳パックにストローをさしてあげたという優しい行動もあったようで、うれしい給食の時間でした。高価で美味しい牛丼、最高においしかったです。



1500年前の土器にドキドキ♪

王屋敷遺跡から出土した国の指定重要文化財「有柄細形銅剣」が、市に寄託されたそうです。このことから、王屋敷遺跡付近から出土した「土器片」(1500年以上前のもの)を、先日、持ち主である小島さんより見せていただきました。実は、それだけでなく、触らせていただきました。歴史の流れ、時代の流れ…向津具浪漫を感じながら、ありがたい時間でした。



向津具小のヤマサン物語⑯

そろそろヤマサンが卵を産む頃ではないかと生息地に出向いてみました。しかし、1月下旬から何度か行ってみるのですが2月上旬でも産卵はまだのようでした。

ようやく2月中旬になって、山に上がったヤマサンが産卵のために水辺に戻ってき始めたようです。下関の方面では、オスが水辺でメスを待っている様子を見たことがありますが、向津具では、成体は発見していません。今年は産卵に来た成体に出会いたいなと密かに思っています。

今年は、児童に生息地での卵の様子を観察させたいこと、できれば、採卵をする卵塊をどれにするか児童に決めさせたいと思っています。きっと、大切に大切に命に向き合ってくれるのではないかと思います。



水の中に、発見！写真では小さくてわかりませんね。